

「学術会議解体法案」の衆院本会議での採決強行に抗議します

日本学術会議を特殊法人化する「日本学術会議法案」が5月9日に衆議院内閣委員会で、13日には衆議院本会議で自民党、公明党、日本維新の会などによって慌ただしく強行採決されました。

この法案は、科学の成果を軍事に利用し、また目先の経済的利益追求に貢献させるため、学術会議から独立性・自主性・自立性を奪おうとする、まさに「学術会議解体法案」というべきものです。

ために、この法案に対しては学術会議会長経験者6名や多くの学術・研究団体、市民の強い反対の意志が表明されてきました。

私たち中野区民も2020年10月の菅首相（当時）による6名の学術会議会員の任命拒否以来、多くの個人・団体の賛同を得て「**日本学術会議の会員任命拒否の撤回を求める中野区民の会**」を結成し、今日まで3度にわたり反対の声明を発し、また400名余の反対署名を集めるなどの活動を粘り強く取り組んでまいりました。

直近では4月26日に元学術会議会長の広渡省吾氏を招いての講演会を、会場一杯の84名の参加を得て成功させました。

私達は今回の採決強行に強く抗議すると共に、参議院の審議においてこの法案を廃案に追い込むために、一層の力を尽くすことを表明するものです。

2025年5月14日

「日本学術会議の会員任命拒否の撤回を求める中野区民の会」

代表委員・晴山一穂（専修大学名誉教授）